

第5学年国語科学習指導案

1 単元名 人物の考え方や生き方をとらえよう 「大造じいさんとガン」

2 指導観

① 児童の実態

本学級の児童は、これまでに物語文「新しい友達」や「わらぐつの中の神様」の学習を通して、読みのめあてにそって登場人物の気持ちや生き方・考え方を読み取る学習をしてきている。その中で、児童は根拠となる言葉や文をはっきりさせて、そこからどんなことが分かるのかを自分の言葉で書くことができるようになってきた。また、二つ以上の根拠となる文を結んで考えることも少しずつできるようになってきている。しかし、読みの能力における個人差が大きくて、あらすじをきちんと把握することや、根拠となる叙述は見付けることができても、そこから自分の解釈を書くことについては、まだ十分とは言えない児童もあり、個別指導が必要であるのが現状である。

② 教材の価値

本教材は、物語の展開が劇的でおもしろく、読みの意欲が高まっていく作品である。大造じいさんと残雪の知恵比べのおもしろさに引き込まれ、残雪との戦いのたびに大造じいさんの心情が変化していくことに心を動かされる作品である。また、残雪の知恵のすばらしさや命がけで仲間のために戦う姿に感動できる作品である。5年生の児童は大造じいさんの目と心を通して残雪を見つめ、大造じいさんに共感しながら読み進めることができるであろうと考える。また、心情の変化に関係のある言葉や心情を比喻で表現する情景描写に着目し、心情の移り変わりをつかんだり心情を想像したりできる作品である。

③ 指導に当たって

本教材の指導に当たっては、次のような工夫を考えている。

- i 出合う段階では、まず題名を読み、「大造じいさんとガン」という題名から気付いたことや考えたことを発表させた後、前書きを読む。前書きに作者が「わたし」として登場していることに着目させ、作者が大造じいさんとガンのどんなことを伝えたいのかという疑問を持たせる。
題名の読み取りから両者の関係に作者の伝えたいことがこめられていることを確認し、両者の関係を追求する読みのめあてをつくる。
- ii 見通す段階では、まず全文を読み通し、文章構成と展開をとらえる。そして読みのめあてについての自分なりの考えをもたせる。そのあと交流して学級としての読みのめあての考えをまとめる。その中ではっきりしなかったことや疑問点などを中心に読み確かめることを交流させて読み確かめの計画を立てる。
- iii 読み確かめる段階では、ひとり読み、交流という2つの活動を通して、場面ごとの大造じいさんの残雪に対する見方や気持ちの変化をたどりながら、読み確かめていく。ひとり読みの活動では、まず場面を音読することであらすじを確認する。その後どの叙述をもとに読み確かめるのかを確認して、ひとり読みをさせる。最後にどの叙述をもとにしたかを自分の考えの手がかりになった叙述を発表し合い整理する。交流活動では、友達がどの叙述からどう読み取ったのかを自分の考えと比べながら聞くことをしっかり押さえる。交流活動の後に、学習感想を内容と読み方の両面から書かせる。
- iv まとめの段階では、もう一度題名について振り返り、読み確かめてきたことをもとに感想をまとめさせる。

3 目標

- ◎ 大造じいさんの気持ちの変化を読み取ることができる叙述を見付け、そこからどんな気持ちの変化が分かるかを自分の言葉で書くことができる。《自ら》
- ◎ 自分が見つけた叙述を根拠とし、自分が解釈したことを説明しながら、互いの読みを比べ合うことで、自分の考えをより確かなものにするができる。《互いに》
- ◎ 大造じいさんの心情の変化や場面の様子を叙述や情景描写をもとに想像し、人物の思いや生き方について考えながら読み味わうことができる。《読み》

4 指導計画：11時間（※支援 a はひとり読みに関する支援 b は交流活動に関する支援）

配時	主な学習活動と内容（○）	支援（※）と評価の視点（◆）
1	<p>題名と前書きから、読みのめあてをつくる。</p> <p>1 題名から内容を予測し、想像したことや疑問を出し合う。</p> <p>2 前書きを音読して、大造じいさんについての叙述を読み取る。</p> <p>3 題名の読みと前書きの読みをつないで読みのめあてをつくる。</p> <p>○ 題名の読みと作者の伝えたいことをつないで読み通すためのめあてを考えること。</p>	<p>※ 題名の「ガン」は鳥の雁であることを知らせ「と」の働きに着目して予測させる。</p> <p>◆ 進んで一つの言葉からイメージを広げたり話したりしているか。</p> <p>※ 大造じいさんについての叙述に気を付けて音読させる。</p> <p>※ 作者が「わたし」として登場していることに気付かせ、作者はどんなことを伝えたいのかという視点を持たせる。</p>
<p>【読みのめあて】 大造じいさんとガンは、どんなつながりがあるのだろう。 また、作者の伝えなかったことは何だろう。</p>		
2	<p>全体を読み通して、四つの場面のあらすじをもとに、大造じいさんとガンはどんなつながりがあるのかを書きまとめる。</p> <p>1 全文を読み、あらすじをとらえる。</p> <p>○ 文章構成と展開をとらえること。</p> <p>2 それぞれの場面での大造じいさんとガンの叙述のところにサイドラインを引く。</p> <p>3 場面をつないで、読みのめあてに対する自分の考えをまとめる。</p> <p>○ 読みのめあてをもとに、大造じいさんとガンの気持ちや残雪に対する気持ちの変化を読み取ること。</p>	<p>※ 難しい言葉やわからない言葉には丸を付けながら読ませる。</p> <p>※ あらすじや構成がとらえやすい学習プリントを準備する</p> <p>※ 机間巡視をしながら、自力で活動を進めているか、一人一人に対して支援する。(a-4)</p> <p>◆ 自分で、答えにつながる叙述を見付けて線を引いているか。</p> <p>※ 線を引いたところから、読みのめあての答えにつながる部分を見付けて、自分の考えを書きまとめさせる。</p> <p>◆ 線を引いたところから、読みのめあての答えにつながる部分を見付けて、自分の考えを書きまとめることができているか。</p>
<p>【読みのめあてに対する自分の考え】 大造じいさんとガンは最初は狩人と獲物としてのつながりだったが、最後には尊敬できるライバルとしてのつながりになった。また作者は、残雪の頭領らしい勇気や態度、そして大造じいさんが狩人としてほこりをもって戦う姿やすばらしいものに感動する心を伝えなかった。</p>		
<p>4 読みのめあてに対するそれぞれの考えを交流し合う。 ※ どうしてそう考えたのか、理由も述べさせる。</p>		
3	<p>まだはっきりしないことや疑問に思うことをもとに、読み確かめの計画をたてる。</p> <p>1 それぞれの場面でもっと詳しく読み深めたいところや疑問に思うところを出し合う。</p> <p>2 学習計画をたてる。</p> <p>○ 読み確かめや疑問点の解決について、見通しをもつこと。</p>	<p>※ 各場面ごとの疑問が出しやすいように前時の学習のまとめを掲示しておく。</p> <p>※ 各場面での大造じいさんの気持ちが強く表れている文をキーワードとして出させて、そこを中心に読み確かめることを確認する。</p> <p>◆ どこを読めば読み確かめることや、疑問点が解決するかを自分で考えているか。</p>
4	<p>ウナギつり針作戦を残雪に見破られてしまった大造じいさんの気持ちと残雪に対する見方の変化を読み確かめる。</p> <p>1 一の場面を音読し、場面のあらすじを確認する。</p> <p>2 学習プリントに線を引いたり、書き込みをしたりしながら大造じいさんの気持ちを考える。</p>	<p>※ 口形に気をつけて、はきはきすらすら音読させる。(a-1)</p> <p>※ 心情が分かる言葉や文の見付け方を確かめて書き込みをさせる。(a-3)</p> <p>【見付け方(例)】</p>

○ 叙述を根拠として、大造じいさんの気持ちと残雪に対する見方について自分の考えをもつこと。

- ・会話文から心情が推測できるもの
- ・行動から心情が分かるもの
- ・情景描写から心情が分かるもの など
- ※ 机間巡視をしながら個別に支援する。(a-4)
- ◆ 敵とはいえ、残雪の賢さに感心する大造じいさんの気持ちを読み取ることができているか。

残雪は・・・頭領らしいなかなかりこうなやつ

いまいまして思っていました。

今年こそはとかねて考えておいた特別な方法（今年にける意気込み）

たかが鳥のことだ

◎ 秋の目が美しくかがやいていました。（作戦に対する自信）

これもあの残雪が・・・ちがいありません

「ううむ。」 ・感心している ・鳥に対する見方が少し変わっている

大造じいさんは思わず感嘆の声をもらしてしまいました。

3 大造じいさんの気持ちを考えるときに根拠となった叙述を紹介しあう。

- ※ 文章中のどの言葉から考えたのかを、はっきりさせて発言させる。(b-2)
- ◆ 自分の考えを根拠をもとに発言することができているか。

5 4 「ううむ。」と感嘆の声をもらしてしまつた大造じいさんの気持ちと残雪に対する見方の変化について自分の読み取ったことをもとに話し合う。

○ 書き込んだことを進んで発表したり、友達の意見を聞いたりして、自分の意見と比べ、考えを深め合うこと。

- ※ 根拠となる叙述をはっきりさせて、自分の解釈を話すようにさせる。(b-2)
- ※ 根拠と考えのつながりに気を付けたり、自分の考えと比べたりさせる。(b-2)
- ◆ 相手意識をもって話したり、自他の考えや根拠を比べながら聞いたりしているか。
- ◆ 相手の考えを確かめたり自分の考えを問うたりして、より確かな考えをもとうとしているか。
- ※ 読みの内容と読み方の両面から、自分が学んだことを書かせる。(b-2)

5 交流で学んだことをもとに、学習感想を書く。

6 タニシ作戦を、残雪に見破られてしまつた大造じいさんの気持ちと残雪に対する見方の変化を読み確かめる。

1 二の場面を音読し、場面のあらすじを確認する。

2 学習プリントに線を引いたり、書き込みをしながら大造じいさんの気持ちを考える。

- ※ 口形に気をつけて、はきはきすらすら音読させる。(a-1)
- ※ 机間巡視をしながら個別に支援する。(a-4)

大造じいさんは、夏のうちから心がけて・・・（時間をかけている）
会心のえみ

◎ あかつきの光が、小屋の中にすがすがしく流れこんできました。

「しめたぞ。・・・今年こそは、目にも見せてくれるぞ。」（期待・意気込み）
ほおがびりびりするほどひきしまるのです。

→ またしても、残雪のためにしてやられてしまいました。

大造じいさんは、広いぬま地の向こうをじっと見つめたまま、
「ううん。」 ・ぼう然としている
と、うなつてしまいました。 ・くやしい思い
・残雪への見方はさらにすごい鳥へと変わっている

3 大造じいさんの気持ちを考えるときに根拠となった叙述を紹介し合う。

- ※ 文章中のどの言葉から考えたのかを、はっきりさせて発言させる。(b-2)

7 4 タニシ作戦を見破られてしまつた大造じいさんの気持ちと残雪に対する見方の変化について自分の読み取ったことをもとに話し合う。

- ※ 根拠となる叙述をはっきりさせて、自分の解釈を話すようにさせる。(b-2)
- ※ 根拠と考えのつながりに気を付けたり、自分の考えと比べたりして聞くようにさせる。(b-2)

5 交流で学んだことをもとに、学習感想を書く。

8
本時

命がけで仲間を救い、最後の力をふりしぼって堂々とした態度を見せる残雪を目にした大造じいさんの気持ちと残雪に対する見方の変化を読み確かめる。

- 1 三の場面を音読し、場面のあらすじを確認する。
- 2 学習プリントに線を引いたり、書き込みをしながら大造じいさんの気持ちを考える。

- ※ 口形に気をつけて、はきはきすらすら音読させる。(a-1)
- ※ 机間巡視をしながら個別に支援する。(a-4)

「今年はひとつ、これを使ってみるかな。」・あきらめてない
 「うまくいくぞ。」・どうしてもしとめたい
 ◎ 青くすんだ空を見上げながら、にっこりとしました。
 「さあ、いよいよ戦闘開始だ。」
 ◎ 東の空が真っ赤に燃えて、朝がきました。(決戦の日のじいさんの気持ちの表れ)
 「さあ、今日こそ、あの残雪めにひとあわふかせてやるぞ。」・意気込み
 ・にくたらしい敵

ハヤブサの出現

残雪の目には・ただ救われねばならぬ仲間の姿
 いきなり敵にぶつかっていった

～なんて思ったか、再びじゅうを下ろしてしまいました。
 ・仲間を救おうとする勇氣

じいさんを正面からにらみつけた
 じたばたさわがなかった

いかにも頭領らしい、堂々たる態度のようでありました。
 頭領としてのいげんをきずつけまいと努力しているようでもありました。

大造じいさんは、強く心を打たれて、ただの鳥に対してしているような気がしませんでした。
 ・命がけで仲間を救う勇氣 ・残雪のことを特別の鳥として見ている
 ・堂々とした態度

大きく変化

- 3 大造じいさんの気持ちを考えるときに根拠となった叙述を紹介し合う。
- 4 命がけでハヤブサと戦う残雪の姿や堂々とした態度を見た大造じいさんの気持ちと残雪に対する見方の変化について、自分の読み取ったことをもとに話し合う。
- 5 交流で学んだことをもとに、学習感想を書く。

- ※ 文章中のどの言葉から考えたのかを、はっきりさせて発言させる。(b-2)
- ※ 根拠となる叙述をはっきりさせて、自分の解釈を話すようにさせる。(b-2)
- ※ 根拠と考えのつながりに気を付けたり、自分の考えと比べたりさせる。(b-2)
- ※ 読みの内容と読み方の両面から、自分が学んだことを書させる。(b-2)

10

飛び去っていく残雪を見守る大造じいさんの気持ちと残雪に対する見方の変化を読み確かめる。

- 1 四の場面を音読し、場面のあらすじを確認する。
- 2 学習プリントに線を引いたり、書き込みをしながら大造じいさんの気持ちを考える。

- ※ 口形に気をつけて、はきはきすらすら音読させる。(a-1)
- ※ 机間巡視をしながら個別に支援する。(a-4)

◎ らんまんときいたスモモの花が、その羽にふれ、
 雪のように清らかに、はらはらと散りました。(晴れやかな気持ち)

「おうい、ガンの英雄よ。おまえみたいなえらぶつを、おれはひきょうなやり方でやっつけたかあないぞ。なあ、おい。今年の冬も、仲間を連れてぬま地にやって来いよ。そうして、おれたちは、また堂々と戦おうじゃあないか。」
 ・対等な存在

大造じいさんは花の下に立って、こう大きな声でガンによびかけました。
 ・どうして残雪ではないのか？

そうして、残雪が北へ北へと飛び去っていくのを、晴れ晴れとした顔つきで見守っていました。

いつまでも、いつもまでも、見守っていました。
 ・ひと冬の間の交流から生まれた親しみ ・尊敬できるライバルを見送る思い

	<p>3 大造じいさんの気持ちを考えるときに根拠となった叙述を紹介し合う。</p> <p>4 飛び去っていく残雪を見守る大造じいさんの気持ちと残雪に対する見方の変化について自分の読み取ったことをもとに話し合う。</p> <p>5 交流で学んだことをもとに、学習感想を書く。</p>	<p>※ 文章中のどの言葉から考えたのかを、はっきりさせて発言させる (b-2)</p> <p>※ 根拠となる叙述をはっきりさせて、自分の解釈を話すようにさせる。(b-2)</p> <p>※ 根拠と考えのつながりに気を付けたり、自分の考えと比べたりさせる。(b-2)</p> <p>※ 読みの内容と読み方の両面から、自分が学んだことを書かせる。</p>
1 1	<p>読み確かめてきたことを振り返り、作者の伝えたかったことについて考えながら、感想をまとめる。</p> <p>1 読みのめあてにもどり、読み確かめてきたことを振り返る。</p> <p>2 作者の伝えたかったことについて考えながら感想を書く。</p> <p>○ 人物の心の変化やそのきっかけとなったことをきちんととらえて自分なりに感想をまとめること。</p>	<p>※ 題名と前書きにもどって、作者が伝えたかったことについてまとめる。</p> <p>◆ 作者の心に残ったものを、物語の内容に即して、自分なりに考えた感想として書けているか。</p>

5 本時 公開授業Ⅰ 14:00～14:45 ひとり読み

6 本時目標

- ① 仲間のために命がけで戦い、傷ついてもなお、頭領らしい堂々とした態度をとる残雪を目にした、大造じいさんの気持ちを読み取っていくために大切な叙述を見付け、その叙述を根拠として自分の考えをつくることができる。《自ら》
- ② 残雪を負かすことを強く望んでいた大造じいさんが、残雪が仲間を救うために命がけで戦う姿や頭領らしい威厳を感じさせる姿を見て、残雪に対して「獲物」「鳥」というものを越え「尊敬に値する相手である」という気持ちをもつようになったことを読み取ることができる。《読み》

7 本時指導に当たって

本時指導においては、次のような学習指導の工夫を考えている。

- i 目と耳から本時場面をとらえることができるよう、音読をする。その後、児童の発表により時間の経過や出来事の順序に従ってあらすじを全体で確かめる。
- ii 命がけで仲間を守るためにハヤブサと戦う残雪の姿や堂々とした残雪の態度を目にした大造じいさんの気持ちを読み確かめるために、「大造じいさんは強く心を打たれて、ただの鳥に対してのような気がしませんでした。」の叙述を中心として、その叙述につながる叙述を見付けて大造じいさんの気持ちを読み確かめていくという読みの視点を明確にする。
- iii 「えんぴつ読み」をする前に、大造じいさんの叙述と残雪の叙述に色分けをして線を引くことや、残雪に対する呼称の変化をたどることなどの、読み確かめる方法を確認する。
- iv 各自が「えんぴつ読み」に取り組んでいるようすを観察し、着目する叙述がつかめない児童や考えが書けない児童に対して読み方のアドバイスや考えを明確にする確かめの質問を行う。さらに良さを認めたり全体に役立ちそうな情報を適宜伝えたりする。
- v 各自の読みに自信を持たせたり、気付きを広げたりすることで、次時の交流への意欲を高めるために自分の考えの根拠となった叙述を発表し合い整理する。

8 展開 (※支援 a はひとり読みに関する支援 b は交流活動に関する支援)

配時	主な学習活動と内容 (○)	支援(※)と評価の視点 (◆)
3分	1 前時の学習内容を振り返り本時の学習の見通しをもつ。	※ 学習計画表をもとに、前時を想起させる。
7分	2 三の場面を音読し、場面のあらすじを確認する。 ・ 大造じいさんのガンがりに対する意気込みの様子 ・ 大造じいさんが強く心を打たれて、ただの鳥に対してのような気がしなかったときの様子	※ 児童の発表によって、場面のあらすじがわかるよう、大造じいさんの行動や重要な出来事を板書に整理する。(a-1)
	3 本時のめあてを確認する。	※ 読み確かめる視点を明確にさせる。(a-3)
<p>《学習のめあて》 強く心を打たれて、ただの鳥に対してのような気がしなかった大造じいさんはどんな気持ちだったのだろう。また、残雪に対する見方はどう変わっただろう。</p>		

<p>5分</p> <p>4</p> <p>読み確かめるための方法を確認する。</p> <p>○ 中心文につながる大造じいさんの気持ちが表れている行動や言葉の見付け方を確かめること。</p> <p>20分</p> <p>5</p> <p>えんぴつ読みをして、大造じいさんの気持ちにと、残雪に対する見方の変化について叙述をもとに考える。</p> <p>○ 叙述をもとに、大造じいさんの気持ちや残雪にを対する見方がどのように変わったかを考えること。</p> <p>《期待される児童の姿》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大造じいさんの気持ちを表す叙述を見付けて線を引き、考えたことを書き込んでいる。 ・ 残雪の姿と大造じいさんの行動や様子をつなげ、考えたことを書き込んでいる。 ・ 一つ一つの叙述から考えた大造じいさんの気持ちの変化をまとめて、学習のめあての答えを出そうとしている。 	<p>※ 人物の気持ちを読み取るために着目すべき叙述の見付け方を確認する。(a-3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人物の行動 ・ 人物の言葉 ・ 情景描写 <p>※ 残雪の行動と大造じいさんの気持ちを対応させるために、残雪の行動には青線・大造じいさんの言動には赤線を引かせる。(a-3)</p> <p>※ 気持ちの変化に気付かせるために中心文にいたるまでの大造じいさんの気持ちの変化や残雪の呼び名の変化をたどらせる。(a-3)</p> <p>※ 着目した叙述に線を引き、自分の考えを書き込む学習プリントを準備する。(a-3)</p> <p>※ 自分の考えが書けそうにない児童を把握しておきアドバイスや確かめの質問などの個別の支援を行う。(a-4)</p> <p>◆ 学習のめあてと読み確かめるための叙述の見つけ方を明確にとらえ、叙述を根拠として人物の気持ちを考える読み方ができているか。</p>
	<p>「今年はひとつ、これを使ってみるかな。」・あきらめてない</p> <p>「うまくいくぞ。」・どうしてもしとめたい</p> <p>◎ <u>責くすんだ空を見上げながら</u> にっこりとしました。</p> <p>「さあ、いよいよ<u>戦闘開始だ。</u>」</p> <p>◎ <u>東の空が真っ赤に燃えて、朝がきました。</u> (決戦の日のじいさんの気持ちの表れ)</p> <p>「さあ、<u>今日こそ、あの残雪めにひとあわふかせてやるぞ。</u>」・意気込み</p> <p>・ <u>にくたらしい敵</u></p> <p>ハヤブサの出現</p> <p>残雪の目には・ただ救われねばならぬ仲間の姿 いきなり敵にぶつかっていった</p> <p>～ <u>なんと</u>思ったか、再びじゅうを下ろしてしまいました。</p> <p>・ 仲間を救おうとする勇氣</p> <p>じいさんを正面からにらみつけた じたばたさわがなかった</p> <p>いかにも <u>頭領らしい</u>、堂々たる態度のようでありました。</p> <p><u>頭領としてのいげん</u>をきずつけまいと努力しているようでもありました。</p> <p>大造じいさんは、強く心を打たれて、ただの鳥に対してのような気がしませんでした。</p> <p>・ 命がけて仲間を救う勇氣 ・ 残雪のことを <u>特別の鳥</u>として見ている</p> <p>・ 堂々とした態度</p> <p>大きく変化</p>
<p>7分</p> <p>6</p> <p>大造じいさんの気持ちを考えるときの根拠となった叙述を発表し合う。</p> <p>○ 考えの根拠となる叙述に対する気付きを広げたり、自信を深めたりすること。</p> <p>《期待される児童の姿》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の発表した叙述を見直して、自分の根拠として取り入れようとしている。 ・ 友達の発表に対して「同じです・他にもあります」の反応を積極的にしている。 <p>3分</p> <p>7</p> <p>本時学習を振り返り、次時の学習内容をつかむ。</p>	<p>※ 出された叙述の中から、大切な叙述を共通の根拠として押さえる。(b-1)</p> <p>※ 考えの根拠となった叙述がはっきり伝わるようにページや行を示させる。(b-2)</p> <p>◆ 友達の考えの根拠となる叙述をとらえ、自分が選んだ叙述と比べながら聞いているか。</p> <p>※ 次時への意欲を高めさせるために、次時の予告をする。</p>